

学校教育における福祉教育のあり方を探る

I 研究の内容

- 1 各校の福祉教育の実践や様々な実践例から学び合う。
- 2 福祉教育のあり方を探りながら、研究授業に向けて部会員全員で授業づくりを行う。
- 3 理論研究、施設見学を通して、福祉について理解を深める。

II 実践・研究授業

1 各校の実践報告・実践事例学習会

各校の福祉教育の実践や部員各自が検索した実践事例から互いに学び合い、そこから統一授業研の授業づくりに向けて方向性を話し合った。

2 施設見学

○県立富士見支援学校の見学

県立中央病院に併設されている「本校」と、県立北病院に併設されている「旭分校」からなる県内唯一の病弱教育の特別支援学校。「本校」は県立中央病院で慢性疾患や心因性疾患などで加療中の、「旭分校」は県立北病院で加療中の小中学生を対象として小中学校の教育課程に準じた学習補完の教育活動を行っている。

<学習内容>

- ・富士見支援学校の概要について
- ・病弱の児童への支援について（学習内容・教室環境など）
- ・中央病院の院内学級との関わりについて

3 研究授業

(1) 第4学年 道徳

「自分にできるボランティアを見つけよう」

大藤小学校 川野和昭教諭

ア. ねらい

○相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を養う。

イ. 本時の学習

- ①「おせっかい」という言葉について理解する。
- ②資料「心と心のあく手」の範読を聞く。
- ③心に残ったところや話したいことを発表する。
- ④主人公「ぼく」を中心に話し合いをする。
- ⑤本当の親切について考え、発表する。
 - ◎「本当の親切」とはどのようなことだと思いますか。
- ⑥おせっかいと思いやりの違いの話を聞く。

ウ. 研究会より

◇導入では、「おせっかい」という言葉を全員が辞書で調べた。一人ひとりが「おせっかい」について意識することができた。

- ◇「心のカード」を使ったのは、赤と青の割合でその子の気持ちを視覚的に捉えることができ、とても効果的だった。
- ◇はじめに自分たちが疑問に思ったことを出させていたが、的確な意見が多かった。
- ◇児童同士の教え合いの時間を取ることも大切である。
- ◇自分の考えを書く場面では、ねらいとしていることを捉えて、自分の言葉で書けていた。全員が一生懸命書こうとする姿が見られた。
- ◇親切の中にも、見守る親切もあるということが、子どもたちの心に伝わったのではないか。
- ◇実践をしてみて、どのように子どもたちに「相手を思いやり親切にする心」が育ったのかを検証することはとても難しいと感じた。

III 成果と課題

1 成果

- ・統一授業研や実践報告から、テーマにそった研究ができた。
- ・学校教育における福祉教育のあり方ということで、立場や担当も異なる先生から様々な視点での福祉という観点からの実践を教えていただくことができたことは大変勉強になった。
- ・道徳、学級活動、総合的な学習など様々な領域にわたって「福祉」の授業や取り組みを実践できることを学んだ。
- ・研究授業の検討や実践報告では、先生方の持ち寄った資料や日頃の実践を交流し合い、よい学習の場となり、自分の学級や学校で実践につなげることができた。
- ・福祉教育の幅の広さを知ることができた。
- ・「ともに生きる」ということをめざして研究を深めることができた。
- ・富士見支援学校の見学も現在の学校教育はいろいろな子どもが共に学ぶという視点に立っているのでよい勉強になった。

2 課題

- ・福祉教育の年間計画があれば、各校もちより参考にしあうとよい。
- ・部員の人数が少ないので、多くの人に入っていただきたい。また、中学校の先生にも入っていただき、小・中連携の福祉教育について学びたい。
- ・少人数の良さもあるが、実践などが固定化しないようにしたい。
- ・福祉教育で扱うものが広範囲になりすぎると、議論が広がりすぎてしまうので気をつけていきたい。

(部長 高石 圭子)